



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
コード番号 3086
代表者名 代表執行役社長 小野 圭一
お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
TEL 03-6865-7621

2024年9月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告（IFRS）

1. セグメント別売上収益（売上高）（対前年増減率：％）

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	9月度	下期累計	9月度	下期累計
百貨店事業	8.0	—	6.2	—
SC事業	9.3	—	9.9	—
デベロッパー事業	20.3	—	20.3	—
決済・金融事業	6.1	—	6.1	—
その他	▲7.1	—	▲7.1	—
連結合計	7.3	—	7.3	—

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高（総額ベース）に置き換えて算出しています。
3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
4. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。
5. 2024年9月1日付のグループ内組織再編に伴い、(株)JFRサービスの運営事業の一部を(株)パルコススペースシステムズ他へ継承いたしました。これに伴い、前年実績は2023年3月1日から変更されたものとみなし遡及修正しております。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 9月度の売上高は、厳しい残暑により秋物ファッションの動きが鈍かったものの、パラソル、スニーカーなどが売上を伸ばし、化粧品、宝飾品、ラグジュアリーブランドも引き続き好調に推移したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年5.5%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同6.2%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年18.1%増（客数同51.5%増、客単価同▲22.0%減）となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高（免税売上の本年・前年実績を除く）は対前年3.9%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の10月度の既存店売上（法人・本社等を除く）は、秋冬物衣料品の動きが鈍く、また名古屋店大規模改装による面積減のマイナス影響も継続しているものの、時計、化粧品が大きく売上を伸ばし、ラグジュアリーブランドも堅調に推移していることなどから、14日までの累計で対前年2.2%増で推移している。
- 10月度の免税売上高は対前年19.7%増（客数同40.6%増、客単価同▲14.9%減）、国内売上は同▲0.3%減で推移している。

2) SC事業

- 訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などにより、全店売上は対前年9.3%増（既存店同11.9%増）。16店舗中13店舗が前年を上回った。特に訪日外国人客の取り込みの効果が大きかった心齋橋PARCOは35.4%増、静岡PARCOは改装効果やキャラクター雑貨のポップアップショップの好調により31.3%増の大幅伸長となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装がホテル内装工事、百貨店改装工事の好調により大幅増収となり、全体でも増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、ポイント費用が増加したものの、加盟店手数料の増加により増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業で、電子デバイスが好調であったものの、自動車部品、産業資材の不調により減収なり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
IR推進担当 TEL 03-6865-7621
グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2024年9月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	9月度		下期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	▲0.2	13.2	-	-
大丸 梅田店	12.7	11.0	-	-
大丸 東京店	4.1	3.0	-	-
大丸 京都店	0.1	1.3	-	-
大丸 神戸店	3.7	6.0	-	-
大丸 須磨店	▲2.4	▲3.2	-	-
大丸 芦屋店	2.3	2.8	-	-
大丸 札幌店	13.9	▲0.2	-	-
大丸 下関店	▲2.3	6.1	-	-
松坂屋 名古屋店	2.3	2.1	-	-
松坂屋 上野店	19.1	6.2	-	-
松坂屋 静岡店	20.4	▲0.1	-	-
松坂屋 高槻店	1.2	3.6	-	-
店 計	5.1	5.1	-	-
法人・本社等	15.9	-	-	-
大丸松坂屋百貨店合計	5.5	5.1	-	-
うち商品売上高	5.3	-	-	-
うち不動産賃貸収入	10.0	-	-	-
博多大丸	15.8	16.0	-	-
高知大丸	6.5	5.2	-	-
百貨店事業合計	6.2	5.7	-	-

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	9月度	下期累計
紳士服・洋品	3.8	-
婦人服・洋品	1.9	-
子供服・洋品	2.9	-
その他の衣料品	▲13.9	-
衣料品計	1.8	-
身 回 品	2.8	-
化粧品	19.7	-
美術・宝飾・貴金属	12.4	-
その他雑貨	▲29.8	-
雑 貨 計	13.4	-
家具	▲8.9	-
家電	▲0.8	-
その他の家庭用品	11.9	-
家庭用品計	6.7	-
生 鮮	▲2.9	-
菓 子	3.4	-
惣 菜	3.3	-
その他食料品	▲2.8	-
食料品計	1.4	-
食堂・喫茶	6.9	-
サービス	11.3	-
そ の 他	46.1	-
合 計	5.3	-

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、厳しい残暑により秋物衣料品の動きが鈍くなるなどのマイナス影響があったものの、ラグジュアリーブランドが引き続き売上を牽引した。紳士服・洋品は、ジャケットやTシャツなどが活発に動いたことにより対前年プラスとなった。身回品では、アクセサリ、ハンドバッグが好調を持続したことに加え、夏物のパラソル、スニーカーなどが売上を伸ばした。雑貨では、9月前半に発売されたスキンケア用の新製品の売上が好調だったことなどから、化粧品が大きく売上を伸ばした。食料品では、入店客数を伸ばしたターミナル店舗を中心に、菓子・惣菜が好調であった。

2024年9月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	9月度	下期累計
札幌PARCO	16.6	-
仙台PARCO	11.8	-
浦和PARCO	13.6	-
池袋PARCO	17.3	-
PARCO_ya上野	15.6	-
ひばりが丘PARCO	▲6.9	-
吉祥寺PARCO	4.8	-
渋谷PARCO	19.5	-
錦糸町PARCO	6.0	-
調布PARCO	4.1	-
松本PARCO	▲19.8	-
静岡PARCO	31.3	-
名古屋PARCO	▲5.0	-
心齋橋PARCO	35.4	-
広島PARCO	7.2	-
福岡PARCO	9.0	-
全店計	9.3	-
既存店計	11.9	-

※注) 1. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	9月度	下期累計
衣料品	6.8	-
身回品	14.5	-
雑貨	15.4	-
食品	▲6.3	-
飲食	10.5	-
その他	4.7	-
合計	9.3	-

3. 営業概況

- ・ 訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などにより、全店で9.3%増（既存店11.9%増）。16店舗中13店舗が前年を上回った。特に訪日外国人客の取り込みの効果が大きかった心齋橋PARCOは35.4%増、静岡PARCOは改装効果やキャラクター雑貨のポップアップショップの好調により31.3%増の大幅伸長となった。
- ・ 食品を除き、前年を達成、特に雑貨が15.4%増、身回品が14.5%増と前年を大きく上回った。雑貨はアニメやゲーム系コンテンツのキャラクター雑貨が心齋橋PARCO、池袋PARCO、渋谷PARCOを中心に好調。身回品はスニーカーを中心とした紳士靴や、宝飾・貴金属が牽引し好調。食品は新所沢PARCO閉館の影響が大きく▲6.3%となった。